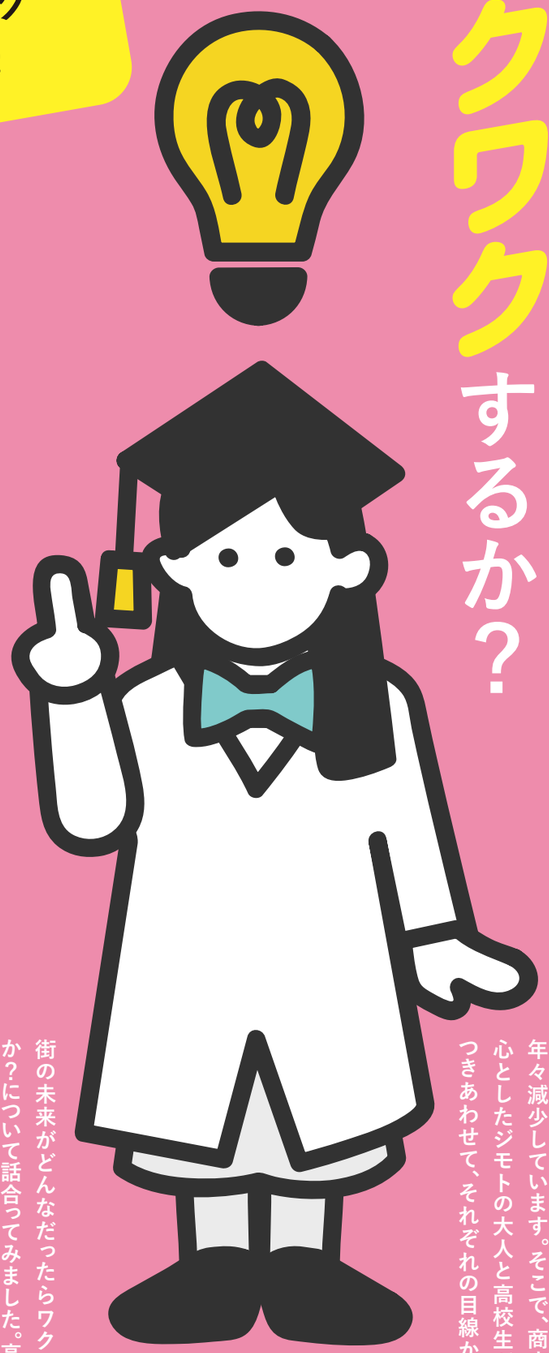
高校生
×
ジモト[商店街]の大人
放課後トーク
Report

留萌の商店街の未来がどんなだったらワクワクするか？

ジモトの未来をみんなで考えよう！



留萌市には、留萌市商店街振興組合に加盟する5つの商店街があり、旧留萌駅前を中心に、約80件ものお店が立並びます。老舗もあれば新しいお店もあり、個性際立つお店には、市外からもお客さんが訪れます。しかし、人口減少や駅の廃止、生活スタイルの変化等により、商店街を訪れる人は年々減少しています。そこで、商店主を中心としたジモトの大人と高校生がひざをつきあわせて、それぞれの目線から、商店街の未来がどんなだったらワクワクするか？について話合ってみました。高校生は、放課後に研究を重ねてこの会にのぞみ、ジモトで頑張る人と接することで、自分の住むまちへの理解や愛着を深めたり、大人は、ワカモノの意見を聞くことで気づきを得たり。課題を解決しようとするのではなく、ワクワクを共有することで、また一歩、ジモトの可能性が見えてきた、そんなワークショップの様子をお届けします。

北海道留萌振興局産業振興部商工労働観光課「令和6年度 地域づくりをとおした人材確保事業」

［テーマ］
商店街の未来がどんなだったら
ワクワクする？

ワールドカフェ方式(※) ディスカッション

［当日の流れ］ 2024年8月5日開催

13:00　今日の内容について説明・商店街の現状について説明
13:10　商店街の散策（2班に分かれて）
14:10　休憩
14:20　高校生による商店街研究・経営者インタビューの報告
14:30　ワールドカフェ開始、内容説明・自己紹介
14:40　第1ターン
15:00　第2ターン
15:25　第3ターン
15:55　全体共有、発表・総評、記念撮影

※ワールドカフェ方式とは、カフェのようなリラックスした雰囲気で少人数のグループが対話し、定期的にメンバーを入れ替えながら多様な意見やアイデアを共有し、全体の知識や理解を深めるディスカッション手法です。

商店街を散策。
知らなかったあんな店こんな店。
商店街っておもしろい！

ワークショップで
グループ毎に分かれてディスカッション。
気づいたら夢中になってた！

みんなで発表。
緊張したけど、うまく伝えられた！

大人もワカモノも、みんなで一緒に
大好きな自分のまちの未来を考えたら
新しいハッケンがたくさんあった！

［主催・発行］北海道留萌振興局産業振興部商工労働観光課
［企画・運営・印刷］株式会社北海道アルバイト情報社 くらしごと編集部

高校生×ジモト[商店街]の大人

放課後トーク

高校生代表／留萌高校2年
Hina Sato

商店街について学校でも調べていましたが、経営者は高齢化し、後継者もいなくて、人がいなくなっているのだと思っていました。ですが、実際に訪れてみると、いい意味で印象が変わりました。また、ワークショップでは「実現できるか、できないかは、考えなくていい！」という前提で、みんなで意見を出し合ったのですが、ワクワクするような想いや、意見がたくさん出て、すごくよかったです！これから自分たちで何か話し合う時にも役立つような素敵な体験でした。

高校生代表／留萌高校3年
Yura Narita

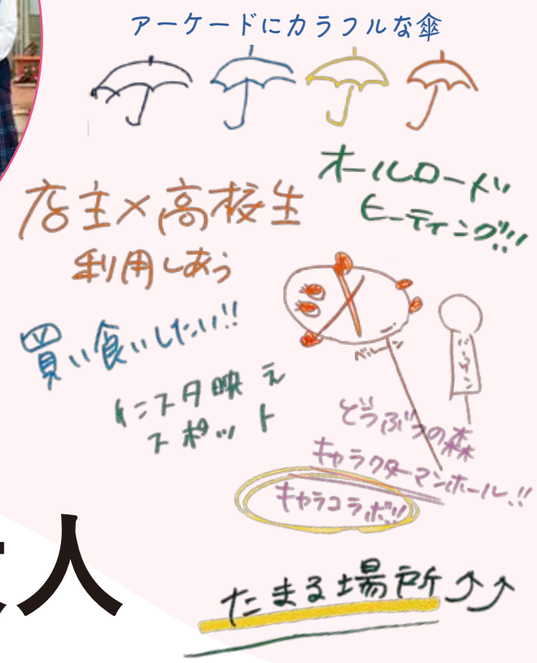
いつもは車で通りすぎる商店街をゆっくり散策できたことで、よく見なきゃわからないお店や、知らなかったお店に出会えました。また、閉店したお店がそのまま残っていて、シャッターだらけだと思っていたその場所にどんなお店があったのか。商店街の歴史も知ることができて、とてもよかったです。最後のワークショップでは、学生だけだと出てこないような意見も聞くことができて、すごく勉強になりました。今回、この場に参加できてよかったです。ありがとうございました！

高校生代表／留萌高校1年
Momoka Odate

商店街散策も、大人の人たちとのワークショップも、初めての体験でしたが楽しかったです！ワークショップでは、自分では考えつかないような他の人の意見や視点を知ることができたので、とてもよかったです！！

高校生代表／留萌高校2年
Miyu Sakuraba

今まで商店街を歩く機会がなかったので、全部の体験が楽しかったです！インタビューにお邪魔した四十坊さんでは、大谷翔平さんも使っているマットレスを体験させてくださったり、オプトメガネさんでは面白いメガネもかけさせてもらったり「留萌にもこんな素敵なお店があるんだ！」と、ビックリしました。お店の人も気さくで話しやすい方ばかりだったので、今度は家族を連れて商店街に行きたいです！



高校生代表／留萌高校2年
Kanen Takagi

ワークショップに参加する前は、堅苦しいイメージがあって緊張していましたが、みなさん気さくでとても楽しかったです。商店街にはカラオケくらいしか来たことがありませんでしたが、今回散策してみて、まだまだ知らないだけで様々なお店があるということに気づきました。中高生がもっとゲーム感覚でまちを散策できるようなイベントをできたらいいなと思いました！

高校生代表／留萌高校2年
Sora Ukita

私は今まで商店街には来る機会がありませんでした。唯一、制服を購入したお店は訪れたことがあったけど、車で来る時は裏玄関から入っていたので、今回、正面玄関から入って「こんなにかわいいものがあったの？！」とビックリしたし、もっと他のお店も知りたいなと思いました。また、学校では商店街について、ネットで調べた情報を元に、いろいろ考えていましたが、大人の人と一緒に散策したり、ワークショップをしたことで「こんな意見もあるんだ！こんな考え方もできるんだ！」と、たくさん気づくことができました。

高校生代表／留萌高校1年
Yuna Tsuruga

商店街は自分の家とは逆方向なので、普段行く機会がありませんでした。今回、10年前の商店街の地図と見比べながら散策したのですが、10年前は今よりもっと便利そうだったんだなと感じました。

ファシリテーターのオトナたち
株式会社北海道アルバイト情報社

Ito　Sasaki　Kawami

全道・全国にパイを届ける菓子店

オトナ代表

株式会社 さんなすび
専務取締役
Hiroki Kataoka

留萌生まれ留萌育ち。3兄弟の末っ子。母方の実家が留萌の老舗菓子店であり父がその代表ということもあり、小さな頃から美味しいお菓子が身近に。父親の引退を機に留萌に戻り、兄たちとともに2017年に「さんなすび」をオープン。当初はサブで出していたアップルパイが評判になり、全国から催事出展依頼が。2019年、コロナで買いに来れない顧客のために、キッチンカーを導入。全道全国各地に美味しいパイを届け中。毎年おいしいものが集まる「名も無きマルシェ」を開催。「自分たちが有名になって留萌の宣伝にも貢献したい！」と語ります。

「3兄弟の自慢のアップルパイを引っ提げ、留萌から全道、全国各地へ！」

お米も売るし設計もする老舗商店

オトナ代表

株式会社 丸カ 笠井商店
取締役・設計部部長
Keisuke Kasai

留萌市出身。小学生の時、実家の新築工事をきっかけに建築の世界に興味を持つ。いつかジモトで設計の仕事することを目標に経験を積んで、2019年に留萌にUターン。現在は、実家の家業である米屋の仕事と設計業務の2足のわらじを履く。仕事以外でも、るもい映画研究会（通称るもい映）の活動をきっかけに、「まちづくりと人づくり」をテーマにした官民の若手チーム「るもい未来観光創生チーム」にも参加、様々なイベントを仕掛け中。自ら設計・リノベーションした自宅の隣に人が集えるフリースペース「yukyuk」も運営。

「米屋と建築、そして街のこと。生まれ故郷で「やりたいこと」を形に！」

音楽愛あふれるレコードショップ

オトナ代表

留萌市地域おこし協力隊
（吉崎レコード楽器店）
Yui Saeki

留萌市出身。クリエイティブな仕事に興味があり、調理や舞台制作など「ものをつくる」仕事を経験した後、コロナを機に地域おこし協力隊としてUターン。実家である吉崎レコード楽器店を継ぐことも視野に、留萌の活性化のため、今自分ができることを次々と実践中。一度外に出たことや新たな出会いを通して、違う角度でじもとを見れるように。「いろいろなことに挑戦しようとする人が増え、それをみんなが応援する機動力のある町になってほしい。まずは今以上に自分がいろいろなことにチャレンジをしていきたい」と未来を見据えます。

「音楽、食、イベント…。挑戦を続け、町も実家のレコード屋も盛り上げたい」

行きつけにしたくなる憩いの花や

オトナ代表

生花店「花日々」店主
Tomomi Omikawa

留萌市出身。20代でジモトにUターンし、たまたま縁あった生花店に就職。そこからお花のお仕事一筋。2019年、神社下商店街に生花店「花日々」オープン。店名は「分かりやすい名前にしてね」とのお客さんのリクエストから。「花屋が作る花は、お客さまの嬉しい、悲しい、ありがとう、おめでとうといった、気持ちをのせてお届けするもの。こんな素敵な仕事は無いです」と語ります。ちなみにお客様の好みは全て頭に入っているそう。看板犬のジャック・ラッセル・テリアの咲（さく）ちゃんと、スタッフさんとともに、花のある日々を皆さんに届けています！

「花屋の仕事に誇りを持って取り組む女性。通いたくなる小さな生花店」

各QRコードから、くらしごとに掲載中の詳しい記事をご覧頂けます

各QRコードから、くらしごとに掲載中の詳しい記事をご覧頂けます